

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2013
11月
No.101



ひ孫と
いっしょ
シリーズ100

山崎町 上ノ下
森元 キクエさん(85歳)

- 瑞季ちゃん(10歳)
- 麻結ちゃん(7歳)
- 帆乃夏ちゃん(5歳)

森元 祥光さん・由美さん
■長女・二女・三女

特集 P2~3

福祉サービス利用援助事業

認知症やもの忘れがひどくなった方の
生活をお手伝い

特集

福祉サービス利用援助事業

認知症やものの忘れがひどくなった方の

くらし

生活をお手伝い



「福祉サービス利用援助事業」とは？

「自分らしく、住み慣れた地域で安心して住み続けたい」
だれもが持っているこの願いの実現をお手伝いする福祉
制度のひとつが「福祉サービス利用援助事業」です。
今月号では、この事業を身近なものとして考えていただ
くため、最近の事例をご紹介しますとともに、この事業の課題
と宍粟市社協の今後の取り組みについてお知らせします。

お手伝いできる内容は？

町村社会福祉協議会が実施し
ています。

この事業でお手伝いできる
ことは、次の4つです。

① 福祉サービスの利用に関す
る相談や助言、事業者との
契約に関すること

② 金融機関でのお金の出し入
れや、公共料金、福祉サー
ビス利用料などの支払いな
ど日常の金銭管理に関する
こと

③ 郵便物の確認と手続きが必
要な場合のお手伝い

④ 紛失の恐れがある通帳や印
鑑の預かり

宍粟市社協では、非常勤の
専門員を1名配置し、ご本人

やご家族のほか、市の地域包
括支援センターや民生委員、
ケアマネジャーなどからの相
談に対応させていただいてい
ます。（平成24年度相談件数
延べ771件）。

現在の利用者は17名

宍粟市では、現在17名の方
にこの事業を利用いただいて
います。ひとり暮らしの方だ
けでなく、家族といっしょに
暮しておられる方もお手伝い
しています。

最近の事例では、次のよう
なものがありません。



民生委員にサービスについて説明をする本会福祉サービス利用援助事業専門員。福祉関係者への周知を行ったことで、利用や相談が増えました（H25.5.9 宍粟市役所北庁舎）

事例 1. 認知症のひとり暮らし高齢者

介護保険のサービスを選ぶのに相談する人がなく困っておられた方

- 通所介護（デイサービス）を利用したいが、どの事業所に頼んでいいのかわからず困っておられた。
- 利用料が支払えるのかについても心配されていたので、週3回程度の利用であれば、生活費を切り詰めずに利用できることを助言させていただいた。
- 今では通所介護の他、訪問介護（ホームヘルパー）など必要なサービスを利用し、自宅での生活を続けておられる。

福祉サービス利用援助事業で 毎日の生活が安心 最近の3つの事例より



サービスの利用についてご家族やケアマネージャーに説明する谷口専門員(写真左)

事例 2. 知的障がいのあるご夫婦

年金を一度に引出し、1か月で使い切っておられた方

- お金があるうちは何でもたくさん購入するため、年金を支給された翌月はお金を残しておられなかった。
- 通帳と印鑑を社協で預かり、毎週1万円ずつ生活費としてお届けするようにしたことで、必要のないものを買われなくなったとともに、急な出費に備え貯金もできるようになられた。

事例 3. 認知症のひとり暮らし高齢者

電気代や水道代などの支払いができず、電気を止められそうになっておられた方

- 放置されていた請求書を整理し、電力会社や市役所などへ問い合わせをしながら支払い手続きをお手伝いしたことで、電気や水道が止められずに済んだ。
- その後、公共料金の支払いは口座振替で行えるよう手続きをお手伝いするとともに、通帳と印鑑を社協でお預かりし、必要な生活費を銀行で出金してお届けしている。

福祉サービス利用援助事業に関するご相談やお問合せは

宍粟市社会福祉協議会 電話72-8787

相談は無料です。お気軽にどうぞ



求められる
成年後見制度の
利用支援

福祉サービス利用援助事業では、支援できないこともあります。

土地や家屋など大きな財産を管理することや、福祉施設への入所や入院するときの保証人になることはできません。

また、認知症が進み、意思表示ができなくなった方には、支援を継続できないことになっていきます。

そのような方は、「成年後見制度」を利用していただくことになり、福祉サービス利用援助事業の利用者が成年後見制度の利用へ移行された方もあります。

単身世帯や家族と離れて暮らす世帯が増える中、成年後見制度の利用が増えることが予想されます。

社協では市の地域包括支援センターと連携し、成年後見制度の利用に関するご相談に対応する「権利擁護センター」の設置について検討していきます。

成年後見制度とは…判断能力が不十分で自分で契約などの法律行為ができない方に対し、家庭裁判所が後見人等を選び、後見人等が本人に代わって財産管理や身上監護を行う制度です。

や

まさき

新しくできた“ふれあいの場”!

～『船元ふれあい喫茶』オープン～

10月20日(日)、船元自治会で初めての「ふれあい喫茶」が行われ、公民館には雨の降る中50人を超える参加者がありました。喫茶の立ち上げにあたり、メニュー選びの試食会をするなど、事前に協議を重ね準備をしてられました。

当日は、数種類のパンから

選べるようにしたり、また、開店

時間や今後喫茶に取り入れて欲しいことなどを聞くアンケートを用意されていました。

参加者からは、「楽しかった。ええことしてくれたな」「今度はいつあるんやろ。毎月してもらいたいわ」など、次の開催を楽しみにされる声が多く聞かれました。



小学生の子どもたちが配膳やアンケートへの記入を呼びかけるなどお手伝い(船元公民館)

(山崎支部 森井裕矢)

「みんなの意見やアンケートを見ながら、今後の取り組みを考えていきたい」と、代表福祉委員の瀧本孝三さん。

地域の行事には、いつも積極的に参加される船元のみなさん。にぎやかに楽しまれている姿が印象的でした。

これから、ご近所で誘いあつて楽しく参加できる「ふれあいの場」として、長く続いていくことを期待しています。

い

ちのみや

いっしょに汗をかく取り組みを

福祉活動リーダー研修会

10月22日(火)、一宮保健福祉センターを会場に、福祉活動

リーダー研修会を行い、代表福祉委員等39人が参加しました。

当日は、生涯学習サポート兵庫の「えのちゃん」こと榎本英樹さんを講師に迎え、「つながりの再構築へ」をテーマにお話しいただきました。

講演では、地域づくりを進める中で、住民同士がいっしょに汗をかくことの大切さやそこから生まれる新たなつながりなど、ご自身の経験や体験を福祉活動におきかえて、えのちゃん流に伝えていただきました。

「感動は汗をかけたもの同士しか分らないのでみなさんも地域で汗をかいてほしい」と榎本さん。

「ええ話やった。また明日から頑張ります」「先生に教わったあそびをサロンで試したい」といった声が聞かれるなど、本当に有意義な



ところどころで“あそび”を交えた楽しい研修会に。会場は平日の夜とは思えない盛り上がりでした。さすが“えのちゃん”です(一宮保健福祉センター)

(本部・宮支部 波多野好則)

時間となりました。

えのちゃんの話を熱心に聞いている参加者の姿に心強く感じるとともに、今後の地域での活動に一層期待が持てる研修となりました。

は
が



ファンも多い廃油石けん。
引き続きメイプル福祉センター
に置いてます

波賀ボランティア連絡会
では、10月13日（日）メイ
プル福祉センターで行われ
た「メイプル福祉まつり」
に参加し、手づくりの廃油
石けんを販売しました。
今回、石けん作りに取り
組むきっかけとなったの
は、各地で起きた大雨や竜
巻による災害でした。
「離れた場所に居ても、何
かみんなに役に立ちたい」
と話し合い、連絡会役員が
製造・ボトル詰めを行った
石けんで募金活動を行うこ
とになりました。



集めた廃油を専用の機械を使って約半日煮詰め、数日乾燥
させたあと、粉碎して詰めました(10/1市民センター波賀)

手づくり「廃油石けん」に想いを込めて

波賀ボランティア連絡会

「自分たちのできること
を、楽しみながら無理なく
取り組むことがいちばん」
が、連絡会の合言葉。
いつも笑顔の絶えないボ
ランティアのみなさん。世
代や地域を越えて繋がって
いくよう、私たちもお手伝
いしていきます。
(波賀支部 草田希望)

ち
くさ

もっとおともだちとあそびたい

なかよしデーで園児が交流

紙芝居『おむすび
ころりん』では身を
乗り出して聞き入る
子もあり、ボラン
ティアの語りに熱が
入りました。また
ペットボトルゲーム
では好きな色のボト
ルを選び、振り鳴ら
す子や音の正体を探
ろうとする子もで
きました。
「『おむすびころ



「♪あんたがたどこさ、ひごさ…。
『さ』のところで、はいポーズ」(千種幼稚園)

10月10日（木）、
千種幼稚園を会場
に、千種幼稚園と千
種杉の子保育園の
交流会「なかよし
デー」が実施されま
した。
この日は、子育て
支援ボランティアと
朗読ボランティアの
協力により、園児た
ち33人が大型紙芝
居やペットボトル
を使った
ゲームを
体験しま
した。

「りん」がたのしかったです」
「もっとおともだちとあそびた
かった」など、園児たちの感想
がありました。
交流を目的に始まった4年前
は、年に数回のなかよしデーで
した。今では月に一度のペース
でお友達に出会い、いっしょに
遊ぶのを園児たちはとても楽し
みにしています。みんなで地域
の「宝」を見守っていきたく
すね。
(千種支部 小原志のぶ)

いのちの尊さと支え合いの大切さを忘れない…

～ 阪神淡路大震災から19年 ～

阪神淡路大震災で亡くなられた方々への慰霊と鎮魂、そして震災から生まれた「きずな・支え合う心」を語り継いでいくため、来年1月17日に震災19年の「阪神淡路大震災1.17のつどい」が開催されます。宍粟市からも竹筒やろうソクをお届けしたいと思いますので、みなさまのご協力をお願いします。

竹筒とろうソクの提供をお願いします

竹筒 長さ40cm～60cm、直径10cm
上部は約45度にカットします。

ろうソク 不要なろうソクをご提供ください。
色や模様がついたもの、どのような形のものでもかまいません。

竹筒づくり参加者募集

日 時:11月27日(水)午前9時～午後3時
会 場:一宮保健福祉センター集合
持ち物:竹を切る道具(ナタ、ノコギリ)、お弁当
お申込み:一宮支部

ろうソクづくり参加者募集

日 時:11月30日(土)午前9時～正午
会 場:メイプル福祉センター
持ち物:軍手、ろうソク
お申込み:波賀支部

●「1.17メモリアルウォーク(神戸市)」への参加についての詳細は、来月号にてお知らせします。

ぶるーべりい会のボランティア



きれいなパンジーに、
みなさん大喜び

10月22日(火) はりま自立の家

はりま自立の家を訪れると、「ぶるーべりい会」のメンバーが、利用者の方々と一緒に花の植替え作業をされていました。

「ぶるーべりい会」はセカンドライフ応援セミナーの第1期生が結成したボランティアグループ。

はりま自立の家で紙すき作業や、クッキーづくりのお手伝いなど、利用者さんとの交流やふれあいを大切に活動されています。クリスマスには市内の幼稚園や保育所に行き、子どもたちに夢を届けるサンタクロースボランティアとして活動しようと、メンバー内で話は盛り上がっています。

自分たちが楽しんで、そして地域の方々のお手伝いができる活動をしようと取り組むぶるーべりい会。これからのみなさんの活動に注目です!

(一宮支部 田中祥仁)

ボランティア センター日誌

子育てのお手伝い～バンビやまさき～



「私たちが子どもを見ていますよ」

10月18日(金)宍粟防災センター

託児ボランティア「バンビやまさき」のみなさんが、やまさき子育てサロンのお手伝いをして下さいました。

この日は、県立こどもの館から伝承遊び普及推進員にきていただき、みんなで伝承あそび(昔あそび)をして体を動かしました。

参加者からは「託児のおかげで、ゆっくりできます」「下の子を見てもらえるので上の子にかまってあげられます」と嬉しい声が聞けました。

「少しでもお母さんにホッとした時間を過ごしてもらいたいですね」と代表の松下由美子さん。

子育てサロンにきたお母さんたちが楽しく、そしてゆっくりと過ごしてもらえうように、バンビやまさきのみなさん、これからもよろしくお願いします。

(山崎支部 横山洋子)